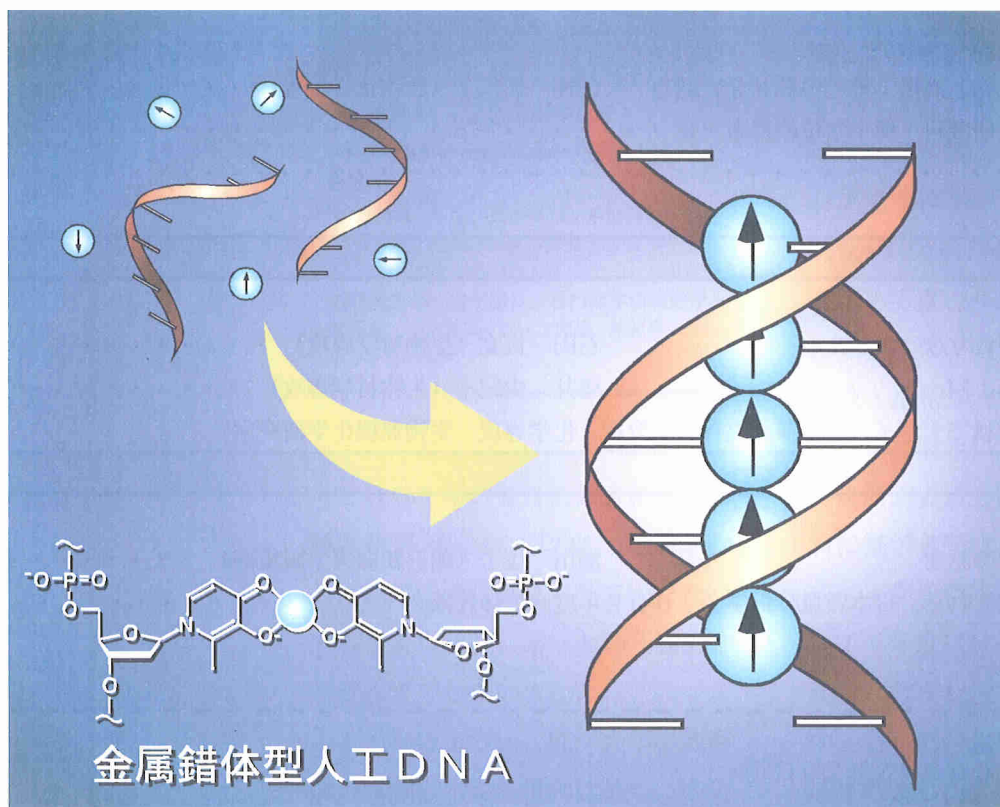


東京大学 理学系研究科・理学部三ユース

34巻4号 2003年3月20日発行

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/>

理学系研究科・理学部ホームページ
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp>
と連携しています。



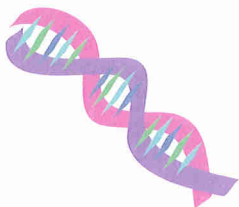
人工DNAを用いて金属イオンを並べる (米科学誌Scienceの2003年2月21日号掲載)

DNAは遺伝情報を司る生体高分子ですが、その分子構造を基に新しい機能性分子に作りかえることも可能です。化学専攻の生物無機化学研究室では、DNAの核酸塩基を金属イオンに結合できる人工核酸塩基に置き換えることによって、水素結合の代わりに金属イオンと錯体を作ることにより塩基対を形成する二重らせん型人工DNAを合成することができました。最近、この金属錯体型人工DNAを用いることにより、二重らせんの中心に磁性をもつ金属イオンを一次元強磁性的に配列化することに成功しました。

➡ 研究室探訪へつづく (16ページ)



1月16日に理学部1号館前で小柴先生のノーベル物理学賞受賞記念植樹がとり行われました。小柴先生が植えているのは「楷の木」と呼ばれる落葉広葉樹で、孔子廟に植えられたことにちなみ「学問の木」とも呼ばれます。成長するとその樹高は15～25mに達し、秋には美しく紅葉します。



```
15: button.Location = new System.Drawing.  
16: this.button.Name = "btn1";  
17: this.button.Size = new System.Drawing.Size (88, 32);  
18: this.button.TabIndex = 0;  
19: this.button.Text = "Write EventLog";  
20: this.button.Click += new System.EventHandler(this.  
21: textBox1
```

